TOKIWA CUCUMBER PROFESSIONAL CATALOG

プロフェッショナルカタログ

種子から始まる安全・安心　信頼の品種

株式会社ときわ研究場

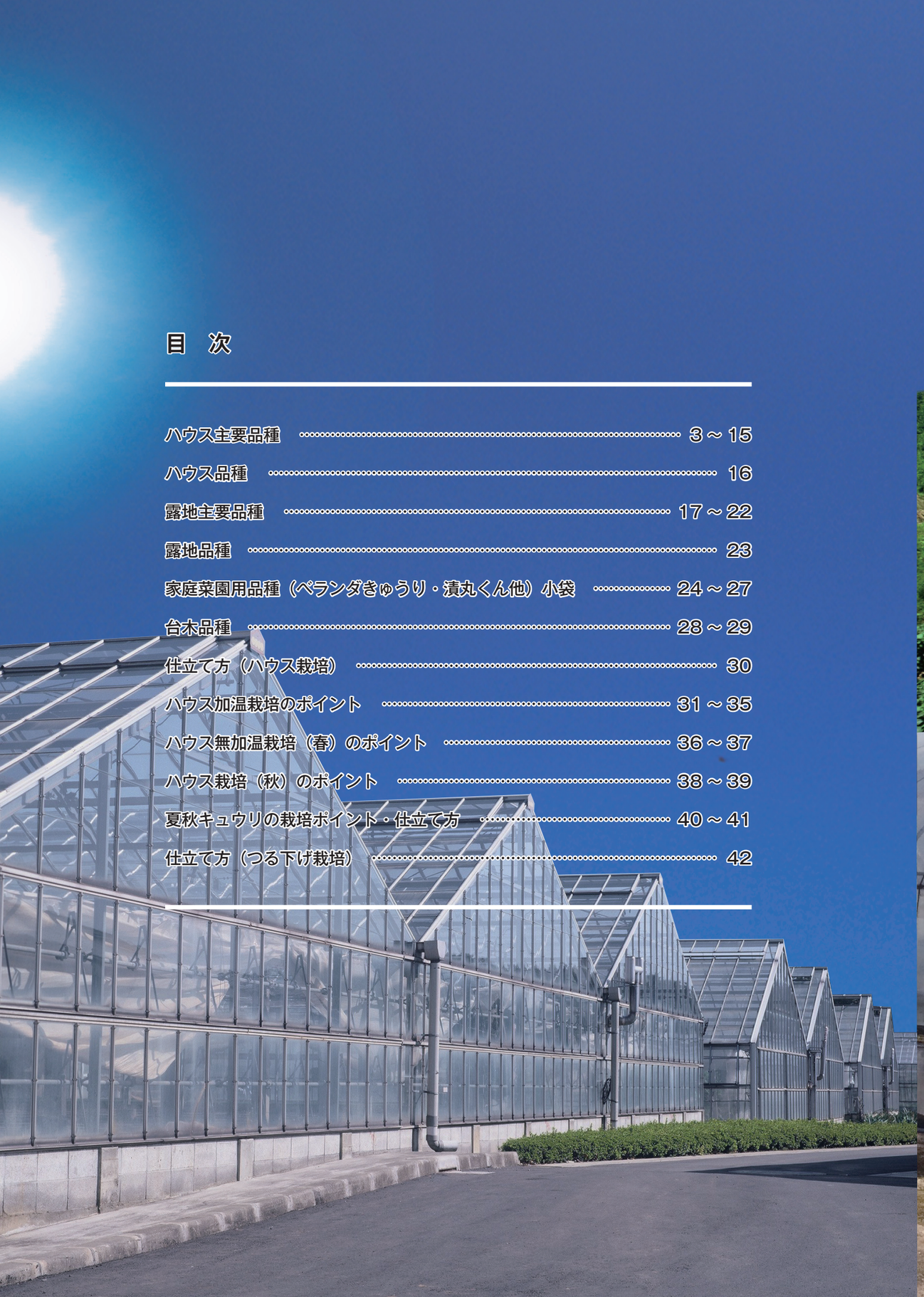
一般社団法人 日本種苗協会®
会員番号 11−094号

2020. 10

株式会社ときわ研究場

目　次

ハウス主要品種 …… 3 ～ 15
ハウス品種 …… 16
露地主要品種 …… 17 ～ 22
露地品種 …… 23
家庭菜園用品種（ベランダきゅうり・漬丸くん他）小袋 …… 24 ～ 27
台木品種 …… 28 ～ 29
仕立て方（ハウス栽培） …… 30
ハウス加温栽培のポイント …… 31 ～ 35
ハウス無加温栽培（春）のポイント …… 36 ～ 37
ハウス栽培（秋）のポイント …… 38 ～ 39
夏秋キュウリの栽培ポイント・仕立て方 …… 40 ～ 41
仕立て方（つる下げ栽培） …… 42



当社は、昭和32年(1957) に一代交配白イボキュウリ「ときわ」を育成し、全国の皆様にご愛顧いただいてまいりました。

近年農業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、“種子（たね）は農を育てる、農は生活（くらし）を育む”という基本に立ち返り、より迅速に、収量性・品質・耐病性はもちろん特異性など幅広いお客様のニーズにお応えできる品種の育成を進めて参ります。

更に品質管理を強固にし、種子検査を始め種子の安全・安心に努め、より高い信頼が得られるように日々益々精進を重ねて参りますので、今後とも倍旧のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

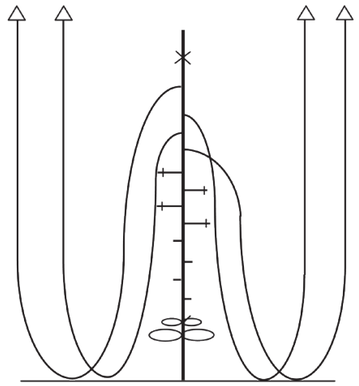
会社概要

名　　称　株式会社　ときわ研究場
所 在 地　355-0167　埼玉県比企郡吉見町田甲1087番地
電　　話　0493-54-1155
F A X　0493-54-1332
U R L　http://tokiwa-cucumber.com/
代表取締役　小田耕司
主要取引銀行　埼玉りそな銀行　東松山支店
三菱UFJ銀行　東松山支店
ゆうちょ銀行

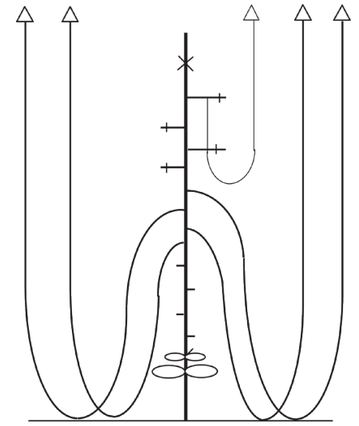
●東北営業所　岩手県北上市成田22-200-1　TEL. 0197-68-2840
●福島営業所　福島県須賀川市西川町104　TEL. 0248-75-1594
●中部営業所　長野県上田市武石下本入64　TEL. 0268-85-3560
●宮崎営業所　宮崎県宮崎市佐土原町下田島20296-85　TEL. 0985-73-3437

つる下げ栽培の仕立て方（例）

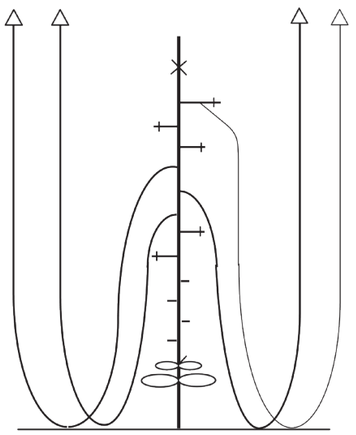
各仕立て共主枝は、10～14節で摘芯



A：上位子枝４本立て



B：下位子枝４本+孫枝１本立て



C：中位子枝３本+孫枝１本立て

A　上位4本仕立て（子枝のみ4本）

①主枝は、10～14節で止め、上位節から子枝４本を選び力枝とする。

②他の側枝は、全て１節止めとし、収穫後除去する。

③子枝３本仕立てや、子枝５本仕立ても行われている。

◎この上位節の子枝だけを力枝とする仕立て方式は、作業性の良さから取り組んでいる産地は多い。特に定植時期の早い（９月下旬～10月中旬定植）栽培に多い。

B　下位5本仕立て（子枝4本+孫枝1本）

①主枝は、10～14節で止め、６～10節間から、子枝（側枝）４本を選び力枝とする。頂点節の孫枝1本を力枝として加え、合計５本仕立てとする。

②他の子枝は、全て１節止めとし、収穫後除去する。

◎下段子枝３本＋頂点孫枝１本の４本仕立ても行われている。

C　中位4本仕立て（中段子枝3本＋頂点孫枝1本）

①主枝は、10～14節で止め、８～11節間から、子枝３本を選び力枝とする。頂点の孫枝1本を力枝として加え、合計４本仕立てとする。

②他の子枝は、全て１節止めとし、収穫後除去する。

◎中段子枝４本＋頂点孫枝１本の５本仕立ても行われている。

◎10アール当り1,000～1,300本植え、つる数4,000～5,500本が一般的です。

◎株間45㎝前後（畦幅1.8～2.0m×１条植）２本仕立て、その他、仕立て方の応用は数多くあり、労力に合わせ、栽植密度、仕立て方は決める。

※最初の力枝の誘引作業（つる下げ）を急ぐと「つる走り症状」を起こすことがあるので、生長点を下向きにさせて、つるの伸びを弱め、果実の肥大を促し、果実の太さが１㎝以上になってから誘引する方が力枝の安定が早い。

複合耐病性、収量性、果形安定性に優れる！

ときわ交配 リスペクト

耐病性 褐斑病　耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 加温 無加温

7月下旬～４月まき

特　性

- 当社育苗による主枝雌花率は、７月まきで20~40%、８月まきで30~40%、12月以降まきで60~70%となる。各節１～２果成りが主体となる。
- カッパン病、ウドンコ病に強く、ベト病にも比較的強いため、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。また従来の耐病性品種に比べ環境適応性が高いので幅広い作型で栽培が可能である。
- 草勢は中強、子枝、孫枝とも安定して発生する。
- 果実肥大は早く、初期から多収となり、樹ボケの心配は少ない。また高温下においても順調に果実肥大し、尻細果の発生は少ない。
- 果長は22~23㎝で、果色は濃緑、肩こけ少なく秀品率高い。
- 葉は濃緑で中葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。

栽培のポイント

- 果実肥大が早いため、灌水は多めにおこない、追肥は遅れないようにする。
- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。

強い耐病性！　おいしい！　早くから良く穫れる！

ときわ交配

G・フラッシュ（グリーン）

耐病性 褐斑病

耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 加温

8～9月まき
10月～2月まき
（つる下げ・摘芯栽培どちらも可）

特　　性

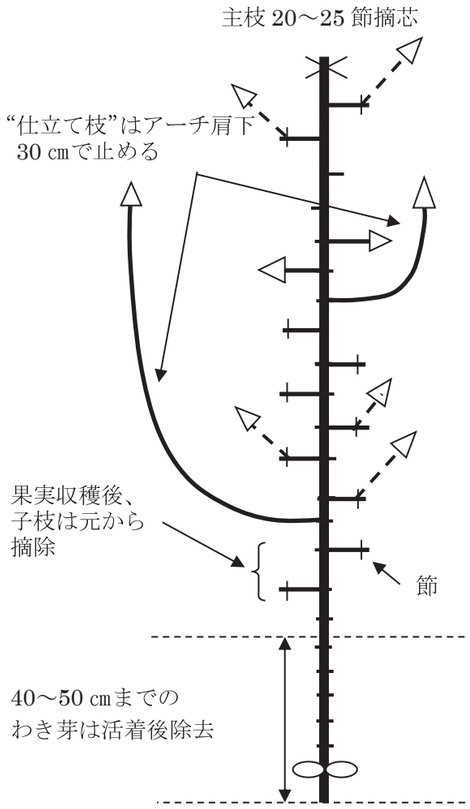
- ウドンコ病、褐斑病に極めて強いため、薬剤散布が軽減でき、栽培後半まで安定した栽培が行える。
- 当社育苗による主枝雌花率は、９月播種で30～40%程度、11月播種で60%程度。各節１・2果成りが主体となる。
- 果実は22cm前後で、果色は濃緑、肩こけ少なく秀品率高い。
- 低温期の果実肥大が早く、実溜まりしにくい。
- 草勢は中位、子枝、孫枝とも確実に安定して発生する。
- 葉は濃緑で中葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。

栽培のポイント

- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。
- 定植後、果実肥大初期は積極的に潅水を行う。
- 果実肥大が早いため、初期に十分な樹勢を確保する。主枝の地際から7節までの雌花を除去する。

耐病性夏秋キュウリの仕立て方の例

例1



○子枝を１～２本残して誘引する

○２本仕立ての株間は70～90cm
　３本仕立ての株間は90～120cm

○一本目の“仕立て枝”は10～13節から出す。

○２本目の仕立て枝は１本目を出した節から５節以上節数を開けてから設ける。

○混み合った部位を中心に積極的な摘葉をする。

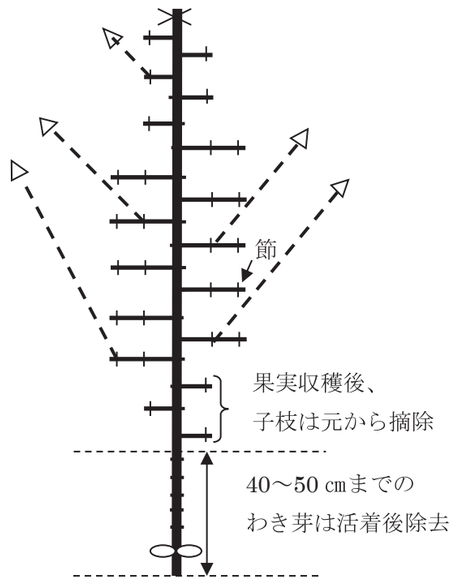
○主枝の摘芯位置はアーチ肩直下が望ましいが、その上で摘芯する場合はアーチ上段の整理を常に心がけ、アーチ内の通風・採光を図る。

○主枝20節あたりまでの孫枝は適宜放任枝として利用する。

○主枝摘芯後に出てくる最上段の孫枝は、中上段の側枝が出遅れる場合に放任枝として利用する。

○アーチ肩部が混んで来たら、外側からのアーチ肩部の摘葉を行い内部の通風・採光を促す。

例2



○子枝は２節で摘芯し、孫枝以降の力枝以外は、適宜摘芯する

○１本仕立ての株間は70cm以上

○生長点は、常時３～４本は確保する。

○摘葉は、混み合っている部位から積極的に行う。

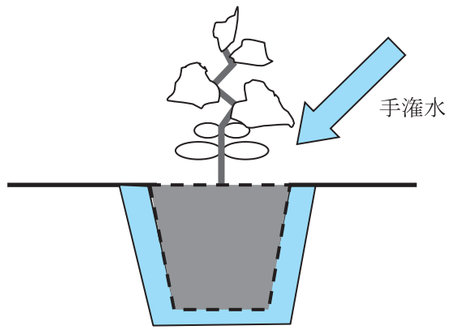
耐病性夏秋キュウリの栽培ポイント

苗は、鉢中心部まで水が十分に浸みた状態(ドブ漬け等)で定植する。

株間は、２本仕立て…70㎝～90㎝、
３本仕立て…90㎝～120㎝

定植初期の強風による茎葉の痛み防止や収穫期における樹勢低下、スレ果等の被害を緩和するために防風ネットを設置する

定植後、速やかに株元潅水を行い株元を湿らせるとともに鉢土と圃場の土をなじませて、発根を促し活着促進を図る



肥培管理

1、元肥は作型・地域により多少異なるが目安として10a当り窒素25～35Kgとし、燐酸、加里成分もバランスをとって施す。

2、生育が順調であれば、初回の追肥は主枝の１～３番果の雌花開花・肥大始め頃にベッド肩から通路(外通路を含む)にかけて潅水とともに行い果実肥大を促す。また敷きワラはその直後に行う。(草勢が弱い場合は、開花前であっても薄い液肥や発根促進剤等を株元に施す)

3、その後の追肥は、枝の開花頃にあわせて積極的に行う。(緩効性肥料や被覆肥料を主体に施している場合でも天候や収量に合わせて追肥を行う)

整枝・摘果・摘葉

1、主枝一番果はベッド上から高さ40～50㎝の節間が長く太く伸び上がるあたりに設ける。一番果より下の雌花と子枝は除去する。下葉は、主枝と下段子枝の果実肥大が始まったら下葉４枚ほどの摘葉を２回に分けて行う。また主枝摘芯頃に枝までの下葉の摘葉を行い、株元の通風採光を図る

2、主枝中下段で連続着果している場合は、不良果を中心に摘果をして３連続着果をさせないようにする。

3、主枝一番果と同じ節から枝を利用する。“仕立て枝”以外の子枝は１節止めを基本とする。

4、側枝の摘芯は、止める節の葉が手のひら大になってから行うようにする。その際、健全な芯を１株につき常時３本以上を残すようにする。

5、主枝の摘芯は、“仕立て枝”のほかに親芯の代わりとなる強い芯を必ず３～４本確保してから行う。

6、摘葉は通風、採光を考え、過繁茂にならないように混みあった所を中心に積極的に行う。１回当りの摘葉は、株当り３枚程度とする。

7、天候等により主枝節間長が短く混み合う場合は、枝の間引きを行う。

冬春穫りキュウリ、耐病性の決定版、果形の良さに優れる

ときわ交配 ディソール

耐病性 褐斑病
耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 加温 無加温

９月～３月まき

特　　性

- カッパン病、ウドンコ病に強く、ベト病にも比較的強いため、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 当社育苗による主枝雌花率は、９月まきで20~40%程度、11月以降のまきでは60~70%となる。側枝は連続着果となり、各節１果成りが主体となる。
- 果実は22㎝程度で、果色は極濃緑、肩こけ少なく秀品率高い。
- 葉は濃緑で中~小葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行い易い。枝は、主枝、側枝とも安定して発生する。
- 果実肥大は早く、初期から多収となる。また低温下においても、順調に果実肥大するため最低夜温は、12~13℃（実温）で行う。

栽培のポイント

- 果実肥大が早いので、初期に十分な樹勢を確保する。そのため主枝は、ベッド上40㎝以上の高さより着果させる。
- 潅水・追肥は、早いタイミングで行う。
- 仕立て方は、2~3本仕立て（主枝＋子枝1~2本半放任）の摘芯栽培或いはつる下げ栽培にも適する。
- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。

耐病性アップ！複合耐病性、秀品率抜群

ときわ交配 アドニスK（ケイ）

耐病性 褐斑病　耐病性 ウドンコ病

9月～3月まき

ハウス栽培 加温 無加温

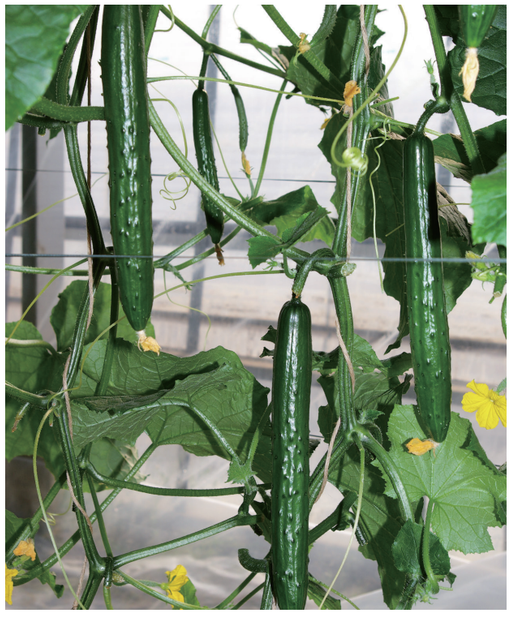
特　　性

- カッパン病・ウドンコ病耐病性でベト病の発生も少なく薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 当社育苗による主枝雌花率は、9月まきで30~40%、11月以降のまきでは60~70%となる。各節1果成りが主体となる。
- 果実は22~23㎝で、果色は極濃緑、肩こけ少なく秀品率高い。
- 葉は小葉で濃緑色、各種病気に強さを発揮する。子枝・孫枝とも安定して発生し、最後まで草勢維持できる。
- 果実肥大が早く、初期収量、総収量とも多収で、秀品率が最後まで高い。

ウドンコ病耐病性、秀品率抜群省力栽培にピッタリ

ときわ交配 アドニス

耐病性 ウドンコ病



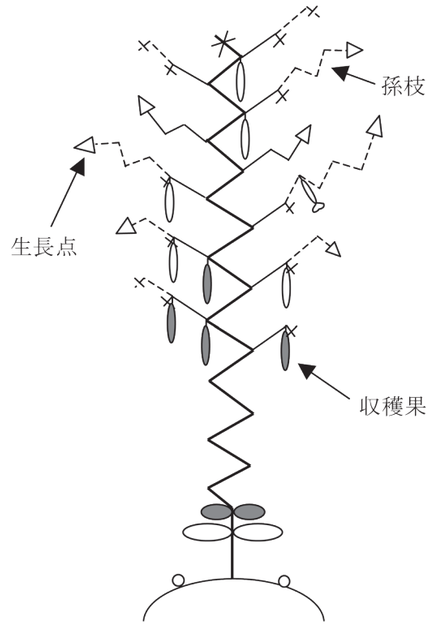
9月～3月まき

ハウス栽培 加温 無加温

特　　性

- 当社育苗による主枝雌花率は、9月まきで30~40%程度、11月以降のまきでは60~70%となる。各節1果成りが主体となる。
- ウドンコ病耐病性でベト病にも比較的強く、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 子枝・孫枝とも安定して発生し、最後まで草勢を維持しやすい。
- 果実肥大良く、収穫全期間を通して安定多収となる。また低温下においても、順調に果実肥大するため収穫期の最低夜温は、実温で最低12℃~13℃以上を確保すればよい。
- 果実は22~23㎝で、果色は極濃緑、肩こけ少なく秀品率高い。

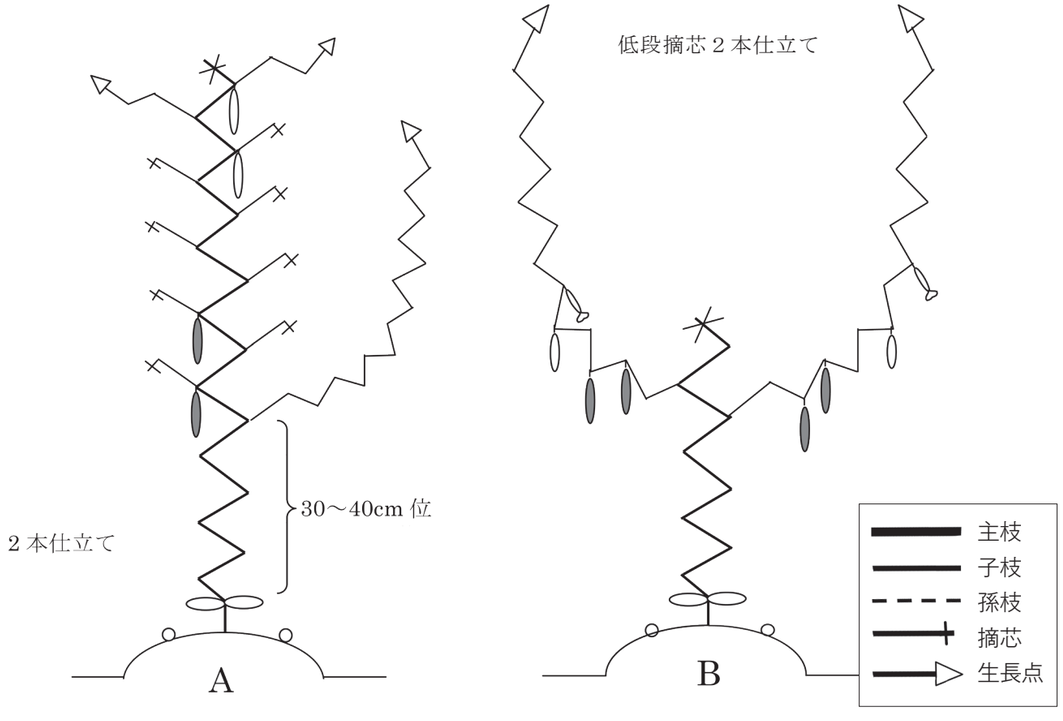
整枝・摘葉について



- 子枝は1節止めを中心に行う。
- 下節位の子枝は少し大きめで摘芯して雌花肥大を促す。
- 中段の子枝は、節間長が短めなら2～3節止めでも良い。
- 摘葉は、孫枝が発生する頃から積極的に行い、光線不足になることを防ぎ、果実肥大をスムーズにする。
- 孫枝の整理については、下位節（2～3本）は元から摘除して、中段はゆっくり摘む。節間が短めな孫枝は数本放任するが、その後に混み過ぎない様に注意する。
- 放任枝は節間長が伸びたら随時摘む様にする。

仕立て方について

- 基本は、子枝を1節止めとする摘芯栽培を行う。
- 通常の1本仕立ての摘芯栽培以外に、主枝6～7節付近（ベッド上より30㎝の高さ）の子枝を1本残す2本仕立て（A）や、主枝を低段（7～8節程度）で摘芯し、直下の子枝を2本残す2本仕立て(B)等の方法もある。

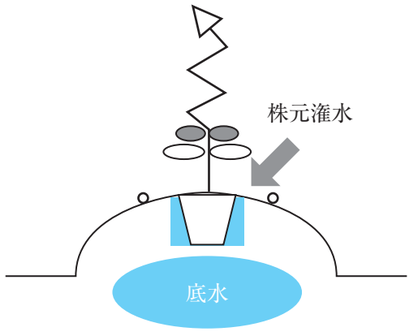


ハウス栽培（秋）のポイント

高温、強光線下の作型のため遮光・通風
または、肥料バランスに注意する。

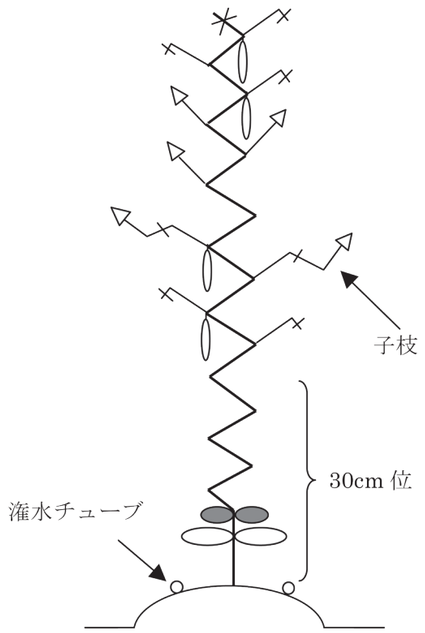
定植～活着

- 元肥は窒素成分20kg前後を目標にし、燐酸、加里の肥料成分もバランス良く施す。
- 定植前にハウス開口部に防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぐ。
- ベッドは中心部まで十分に水を浸透させておく（底水の充実）
- 定植後は活着するまで株元中心の潅水を行い、通路等への散水で空中湿度も確保する。（高温乾燥は芯・葉焼けの原因）
- 被覆資材の遮熱剤塗布、白マルチ等遮熱マルチの利用は高温期のハウス内環境を整えるための効果がある。



収穫始め頃

- 主枝の摘芯はベッド上150㎝とし、一番果または、子枝のスタート位置は、節数にとらわれずベッド上30㎝を目標とする。
- 開花・果実肥大頃より潅水位置を株元からベッド全体へと移動させ潅水量を増やしていく。
- 収穫始め頃より窒素成分１～２kg／10ａの追肥を行う。



収穫盛期

- 夕方の気温が15℃位以下、外気の最低気温が13℃以下になる頃から換気の開閉を行う。
- 初秋の頃は、気温が下がり与えた水が余って湿度が上がり、ベト病や褐斑病、灰カビ病、菌核病等が出易いので予防を徹底して行う。
- 褐斑病耐病性品種は、病気の発生を怖がり過ぎることなく気温の低下が見られる日はハウスを閉めて保温する。

病気に強く、樹の持ちが良く、最後まであおあおとした草姿で、収量性にも優れる

ときわ交配 クラージュ

耐病性 褐斑病　耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 加温 無加温

１月～４月、
７月～９月まき

特　　性

- カッパン病、ウドンコ病に強く、ベト病にも比較的強いため、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 当社育苗による主枝雌花率は、3月まきで50~70%、1~2月まきで70~80%、8月まきで30~50%、各節1果成りが主体となる。
- 果長は21~22㎝、果色は濃緑で秀品率高い。
- 葉は濃緑で中~小葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。
- 果実肥大順調で、初期から多収となり、樹ボケの心配は少ない。また高温下においても順調に果実肥大し、尻細果の発生は少ない。

栽培のポイント

- 仕立て方は、基本的に子枝を１節止めとし、孫枝を必要に応じて２～３本放任し草勢を維持する。
- 果実肥大が早いため、灌水は多めにおこない、追肥は収穫始め頃よりこまめに行う。
- 着果が多く、果実肥大が早いため８節以下の雌花は除去する。また樹勢が弱い場合には、10節目からの着果とする。
- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。

病気に強く、果焼け少なく、安定した果形と収量性で作り易い！

ときわ交配 アドミラル

耐病性 褐斑病
耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 加温 無加温

1月～9月まき

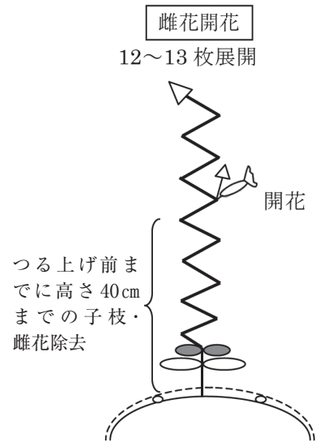
特　　性

- 当社育苗による主枝雌花率は、7月まきで20%程度、1~2月まきで80~90%、各節１果成りが主体となる。
- カッパン病・ウドンコ病耐病性で、ベト病にも比較的強いため薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 葉は緑色でやや小葉、受光態勢の良い草姿となり管理作業が行いやすい。草勢は中、子枝、孫枝とも安定して発生する。
- 果実は21~22㎝で、果色は濃緑、肩こけ少なく、秀品率が高く、果焼けの発生も少ない。
- 果実肥大はスムーズで、収量の波は小さく、安定した収量となる。

栽培のポイント

- 果実肥大が早いため、灌水は多めにおこない、追肥は遅れないようにする。
- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。

一番果開花～収穫期



③一番果開花から収穫始め頃の注意点

○生育が順調な場合は、主枝の７～９節から着果させる。ただし、下節位に過着果して草勢を弱めそうな場合は12節以下の雌花着果を３果までにする。

○雌花開花数が増すごとに、徐々に潅水を増やしていく。

○ハウス内湿度の過不足が起こらない様に、通路の乾き具合には十分注意を払い、随時、通路潅水等を行う。

○収穫開始時の草姿は、本葉が16～17枚展開し、生長点より５枚位下で雌花が開花している状態が良い。

○主枝一番果の開花、肥大頃より少量ずつの潅水・追肥を行っていく(うすい液肥など)。

○草勢維持のために９～10節位からの側枝を1本位放任し、力枝とする。

○換気は徐々に行う。また冷気は地面近くに入り、地温を下げ側枝の発生を妨げるため、直接株に冷気が当たらないよう換気を行う。

④主枝摘芯から収穫最盛期の注意点

○主枝摘芯は、側枝の生長点を２～３本残した状態で行い、草丈は160㎝以内とする。

○主枝摘芯頃から収穫量が増えていくので、天候等を考慮しつつ本格的な潅水、追肥を施用する。

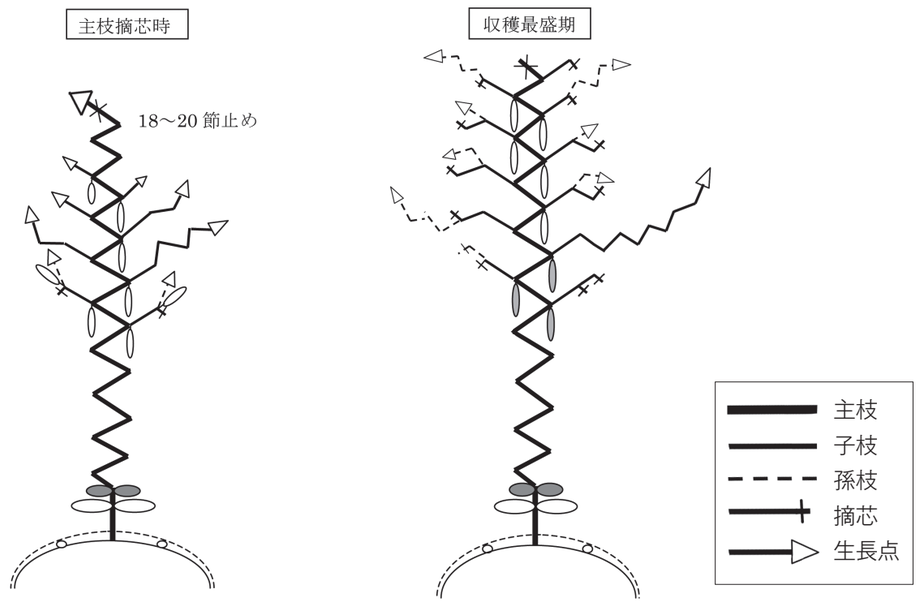
○地温の低下を避けるために、潅水は晴れた日の午前中に行う。

○この時期より枝の発生状況を見ながら、混んでいる部位を中心とした摘葉を始める。

○力枝は、混み過ぎない限りは利用するが、混み合う用なら摘芯し、枝葉の偏りを軽減する。

○力枝以外の側枝は１～２節止めを基本にするが、樹勢が低下した場合は、随時放任する。

○外気温の上昇に伴い、収穫量が増加してきたら、肥料切れや水分不足を起こさない様に、積極的且つ的確に潅水・追肥を行っていく。



ハウス無加温(春)栽培のポイント

定植準備

①元肥は緩効性肥料を中心に、10a当り窒素25～35kgを目安とし、燐酸、加里の肥料成分もバランスをとって施す。

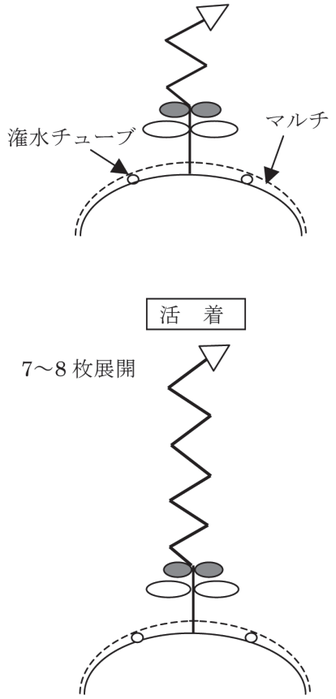
②無加温・雨よけ栽培では、定植時における畦芯の地温・水分の充実が最も大切。よって、畦立やマルチング・潅水は、土壌水分が馴染み地温が上がるように定植の14日以上前に行う。

定植苗について

①きゅうり栽培は接ぎ木苗が主力である
○購入苗　～　断根さし接ぎの苗が主である。胚軸から発生した不定根は、それぞれが細く根圏も比較的浅い。しかし、初期の株元潅水等で、根量を多く深く張らせれば草勢維持は容易。
○自家育苗　～　呼び接ぎ、さし接ぎなど。カボチャ本来の太い主根が広く深く張り丈夫。

②購入苗の注意点
○輸送の問題などで鉢水分が少なく乾いているので、到着後は箱から出し、鉢水分の補給を行う。以降、数日間は管理をしながら馴らしを行う。その後、穏やかな日に定植を行うようにする。

定植～活着まで



①定植前後から活着までの注意点

○最低地温18℃以上を目指す。そのため早めにトンネル被覆を行い地温の保持に努める。

○土壌水分・空中湿度を共に充分確保する。

○根鉢の乾き具合に注意を払い、株元手潅水を随時行う。

○１条植／畦幅1.5～2.0m、株間40～45㎝

②活着後から12～13枚展開までの注意点

○活着(本葉７～８枚展開)後は、潅水を徐々に控える。
(活着後の水分過多は大葉、軟弱徒長になり易い)

○トンネル内と外の温湿度差に注意を払い、通路散水等でハウス内の乾燥を防ぎ、徐々にハウス全体の温湿度に慣らしていく。

○子枝はベッド上から高さ40㎝(６～７節)まで除去し、主枝一番果もその位置(８～９以降)から着ける。ただし、生育が弱めならば一番果の着果節位を上げる。

○主枝節間は、10㎝を目標として保温する。６㎝以下で主枝摘芯節数が20節より多くなるときは、主枝着果位置を上げ、また主枝摘芯位置を下げる。着果数と子枝数を制御することで孫枝以降の発生を旺盛にし、後半の収量を伸ばすことができる。

○本葉10枚以上でつる上げを行う事を目標とする。

○つる上げは、その１～２日前からトンネルを全閉せず、徐々にハウス内の温度・湿度に馴らしてから行う。

○つる上げ後は、少量の潅水(薄い液肥でも良い)を日中に行い、葉の向きを早く正常にするように努める。

褐斑病・ウドンコ病に強い！最後までバテ知らず、上物が多い

ときわ交配 クラージュ2

耐病性 褐斑病
耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 無加温

３月～８月まき

特　　性

- 当社育苗による主枝雌花率は、４月まきで50~70%、８月まきで30~50%、各節１果成りが主体となる。
- カッパン病、ウドンコ病に強く、ベト病にも比較的強いため、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 草勢は中、子枝、孫枝とも安定して発生する。葉は濃緑で中葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。
- 果長は22~23㎝で、果色は濃緑、肩こけ少なく果長の変化が少ない。
- 果実肥大は非常に早く、初期から多収となり、樹ボケの心配は少ない。また高温下においても順調に果実肥大し、尻細果の発生は少ない。

栽培のポイント

- 果実肥大が早いため、灌水は多めにおこない、追肥は遅れないようにする。
- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。

厳寒期における収量性抜群、つる下げ栽培に最適！

ときわ交配 カレント

耐病性 褐斑病

耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 加温

9月～2月まき

特　　性

- 当社育苗による主枝雌花率は、9月まきで40~50%、各節１果成りが主体となる。
- 果実は22~23㎝で、果色は濃緑、肩こけ少なく果形は良い。
- 草勢は中弱、果実肥大旺盛なため、子枝、孫枝ともゆっくり発生する。葉は濃緑で中小葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。
- 主枝・側枝の果実肥大は確実で、初期から多収となり、樹ボケの心配は少ない。また高温下においても順調に果実肥大し、尻細果の発生は少ない。
- カッパン病、ウドンコ病に強く、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。

栽培のポイント

- 果実肥大旺盛なため、灌水は多めにおこない、追肥は遅れないようにする。
- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。

ときわ耐病性キュウリ温湿度管理のポイント

耐病性品種、特にウドンコ病・褐斑病など２種類以上の耐病性を持つ品種は、耐病性を持たない品種の温湿度管理と比べ、午後から前夜半にかけての温湿度を高めに保ち、一方で、午前は早めに換気を始めて極端な高温・蒸込みにならない温湿度管理をして、１日のバランスをとる様にします。また、夜間は１～２℃高い温度で過湿や過乾燥にならない温湿度管理をします。栽培の全期間を通して、温度および湿度の急変を起こさない管理を心がけて下さい。栽培の全期間を通して、温度および湿度の急変を起こさない管理を心がけて下さい。ときわ耐病性キュウリの栽培に以下のポイントを参考にして下さい。

1

定植～活着までの管理で今作の成否が決します。十分な温度、過不足ない湿度の管理を行い素直な生育を促す。また、地温18℃以上、根鉢および根鉢周辺の適水分を確保し、根鉢と本圃が同化して横に縦に大きな根圏を作る。

2

断根の購入苗は特に、根鉢や株周りの水分不足にならない様にして根の伸長を促す。

3

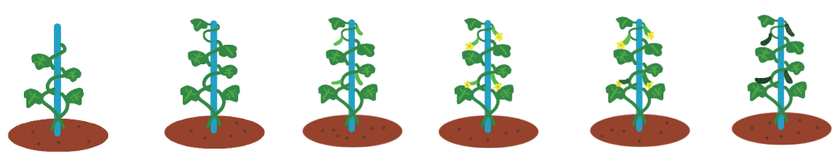
主枝摘芯前の生育期は、温度や土壌水分を極端に抑えることなく素直に生育させる。また、乾いた風を当てない様に注意して雌花の生育を妨げない。

4

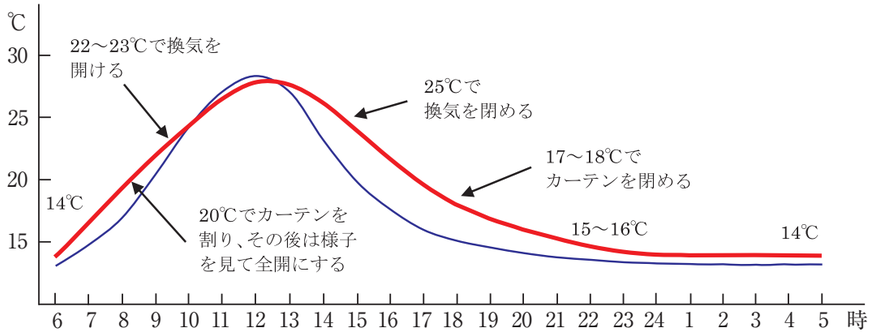
主枝および下段側枝の開花頃より、午後から夕方にかけての温湿度を従来型より高めに管理して、植物体温を保ったまま日没を迎える様な管理をして果実肥大を促進する。

5

栽培中後半に外気温が上がって換気頻度を増やすようになった時は、潅水を増やす。また、午後から夕方にかけての湿度確保を心がけて管理を行う。
例えば、風が強ければ風上側の換気を閉める。通路が乾いたら通路散水をする。

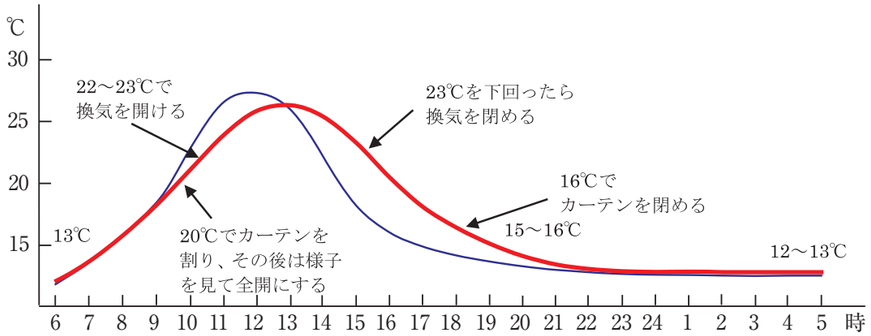


主枝摘芯以降における通常のカーテン開閉、換気、適温操作



●換気後に温湿度の急降下が見られたら、速やかに換気を閉める等の調整をする。
●午後は換気25℃、カーテン17～18℃で閉め、午後から夕方の温湿度を十分に確保する。
●夜間気温は14℃を保ち果実の肥大を促す。

収穫期間中に樹勢回復を図るカーテン開閉、換気、適温操作



●夜間は最低気温が12～13℃を割り込まないように管理する。
●日中の天候が悪かった夜間は最低気温を１℃位低くする。
※“カーテンを割る”とは、カーテンを30㎝位開けることと捉えて下さい。

摘芯栽培から西日本のつる下げ栽培まで、幅広い作型で益々高い評価

ときわ交配 ズバリ 163

ハウス栽培 加温 無加温

12月～4月、
7月～10月まき

特　　性

●当社育苗による主枝雌花率は７～８月まきで30~40%、１～２月まきで80~90%となり、いずれの播種期でも１～２果成りとなる。
●果長21㎝位、きれいな円筒形で尻細・尻太果の発生少なく、果形の安定性に優れる。収穫期全般にわたって、光沢のある果実が成り続ける。
●肉厚な濃緑色の葉で葉柄が立ち、枝は太めでゆっくりと確実に発生し、しっかりとした草姿となる。主枝・側枝ともに節間は間伸びしにくい。
●初期からの開花･肥大早く、最初から最後まで収量性に富む。特にハウス抑制栽培の後半では果実肥大が良く、安定した収穫量を維持できる。

栽培のポイント

●つる下げ栽培における主枝着果は７節以上からとし、草勢に応じて主枝下段の摘果を行う。
●台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。

暑くても、形が良くて作り易い！

ときわ交配 ワントップ

耐病性 褐斑病
耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 無加温

6月～8月まき
2月～5月まき

特　　性

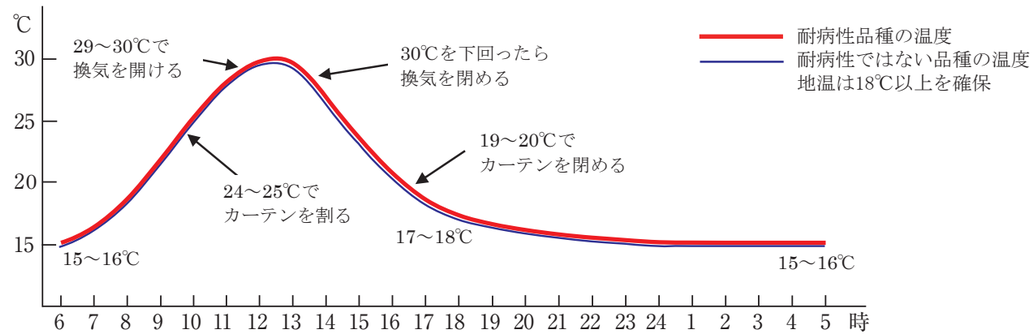
- ウドンコ病、褐斑病に強く、ベト病にも比較的強いため、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 草勢は中位、側枝、孫枝ともゆっくりだが確実に安定して発生する。
  果実肥大は早く、初期から多収となり、樹ボケの心配は少ない。
- 当社育苗による主枝雌花率は、7月播種で30～50%、各節1果成りが主体となる。
  果実は21～23cmで、果色は極濃緑、肩こけ少なく秀品率が高い。
- 葉は濃緑で中葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。

栽培のポイント

- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT－Ⅱ」が適する。
- 果実肥大が早いため、灌水は多めにおこない、追肥は雌花開花頃から始めて遅れないようにする。

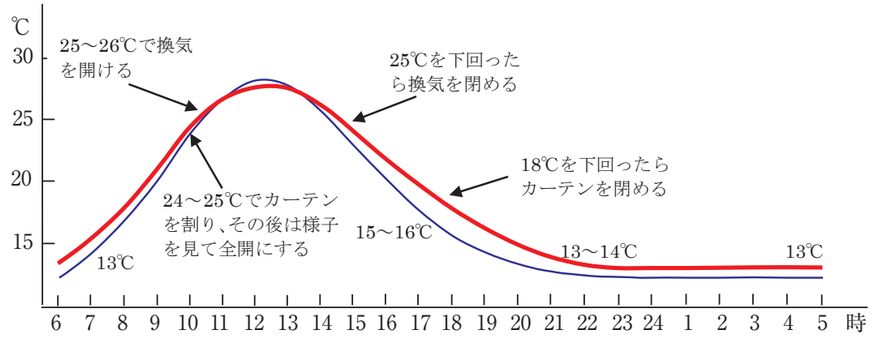
ときわ耐病性キュウリの加温栽培における温度管理

定植から活着までのカーテン開閉、換気、適温操作



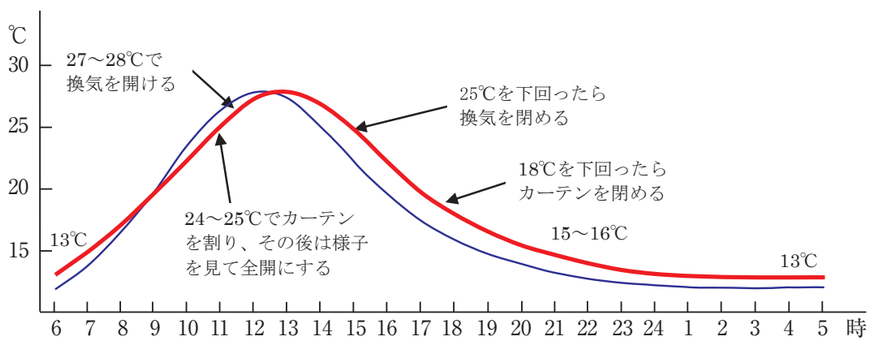
- 定植から活着までは、前夜半の気温を16℃以上確保、後夜半も15～16℃を維持して活着を早める。
- 午前中の空中湿度は、十分保ち、萎れを防ぐためにカーテンの全開は避ける。

本葉7～8枚から11～12枚までのカーテン開閉、換気、適温操作



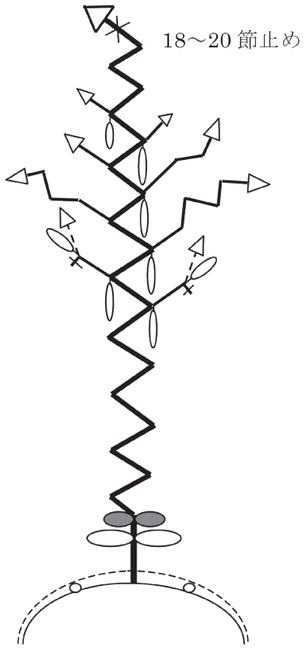
- 活着後（7～8枚以降）は午後～前夜半にかけて過度の温湿度低下を避ける。
  （午前中は過度の蒸込みをしない）
- カーテンは25℃位で開け始めるが、一気に開けず、徐々に開けて午前中の空中湿度を適度（80%程度）に保つことが大切である。
- 換気は25～26℃を目標に開け始める。
- 換気は25℃、カーテンは18℃を下回ったら閉める。

本葉11～12枚から収穫期までのカーテン開閉、換気、適温操作



- 午前はカーテンを24～25℃、換気を27～28℃で開け始める。
- 最低気温が13℃を割り込まないように温度を確保する。
- 日中の天候が悪かった夜間は最低気温を1℃低くする。

⑤ **主枝摘芯時**



⑤主枝摘芯時及びそれ以降の注意点

○主枝摘芯はベッド上140～150㎝位（18～20節まで）とする。10～14節の低節位摘芯により子枝を有効に利用する方法もある。

○主枝を摘芯する場合はその節の葉が水平に展開した頃に行う。この時３枚展開している子枝を１～２本確保する。

○収穫開始頃より収穫量、天候に応じてバランス（N、P、K）良く適正な追肥量を施す。（収穫量100～150箱（５kg）／10aに対して１～２kg／10aの窒素成分を目安に施す）

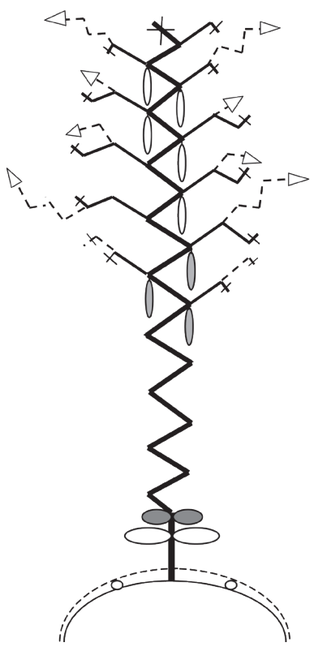
○草勢を見ながらバランス良くN、P、Kの補給を行う。

○下葉の整理は早めに行い、株元に光線が入るようにする。（特に日照量の少ない時や低温期）

○孫枝の発生頃より側枝（子･孫枝）の発生、伸びを確認しながら、混みあっている部分を中心に摘葉を行う。特に伸ばす枝が有る場合は、周囲の葉を先に摘葉する。

○潅水は、草勢、着果数、天候等を見ながら行う。（低温期の午後以降の潅水は、地温を下げキュウリの生育にマイナスとなるので避ける）

⑥ **収穫最盛期**



⑥収穫最盛期以降の注意点

○孫枝は、草勢により１･２節～数節止め、半放任、放任とする。特に草勢が弱い場合は、摘芯をしばらくの間見合わせ、半放任或は放任とする。

○半放任・放任する枝数は、諸条件により異なるが、３～４本程度（２～３節伸びた枝）とする。多く残し過ぎて、徒長、過繁茂、光線不足にならないようにする。

○摘葉は、随時行い、採光・通風を図り、果実の肥大促進、草勢の維持を図る。

※上記は、主枝１本仕立ての一般的な摘芯栽培ですが、品種や作型、草勢等により仕立て方はこの限りではありません。
子枝を最初から半放任（力枝）とする方法もあります。
（仕立て方図P30参照）

主枝
子枝
孫枝
摘芯
生長点

ついに出た！ときわの耐病性節成りキュウリ

ときわ交配 耐病光華（こうか）

耐病性 褐斑病
耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 加温 無加温

２月～７月まき
１月～９月まき（暖地）

特　　性

- ウドンコ病、褐斑病に強く、ベト病にも比較的強いため、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 草勢は中位、初期の成りこみが激しく子枝、孫枝の発生はゆっくりとなる。
- 果実肥大は早く、初期から多収となり、樹ボケの心配は少ない。また高温下においても順調に果実肥大し、尻細果の発生は少ない。
- 当社育苗による主枝雌花率は、７月播種で70～100%、各節１～２果成りが主体となる。
- 果実は22～24cmで、果色は極濃緑、肩こけ少なく秀品率高い。
- 葉は濃緑で中葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。

栽培のポイント

- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT－Ⅱ」が適する。
- 果実肥大が早いため、樹づくりが大切。果実の開花肥大に合わせてこまめな灌水を行うとともに追肥も積極的に行う。
- 7月～８月上旬定植の場合は、子枝は1節止めとし孫枝から半放任枝を残す。

高温時期の果形安定性に優れ、安定多収となる

ときわ交配

コレクト

耐病性 褐斑病

耐病性 ウドンコ病

ハウス栽培 無加温

３月～８月まき

特　　性

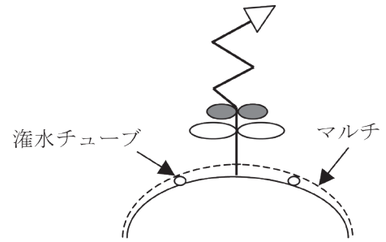
- カッパン病、ウドンコ病に強く、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 当社育苗による主枝雌花率は、７月まきで30~50%、各節１果成りが主体となる。
- 果長は21~22㎝となり、果色は極濃緑、肩こけ少なく秀品率高い。
- 葉は濃緑で中葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。草勢は中、子枝・孫枝とも安定して発生する。
- 果実肥大は非常に早く、初期から多収となり、樹ボケの心配は少ない。また高温下においても順調に果実肥大し、尻細果の発生は少ない。

栽培のポイント

- 果実肥大が早いため、潅水は早めに多く行い追肥は遅れないようにする。
- 台木は、「ぞっこん」、「ときわGT-Ⅱ」が適する。

ハウス加温栽培のポイント

① 定　植



①定植前後から活着まで

○元肥は10a当り窒素30～35kgを目安とし、燐酸・加里の肥料成分もバランスをとって施す。

○最低地温18～20℃を保つ。特に地温の保持に努める。

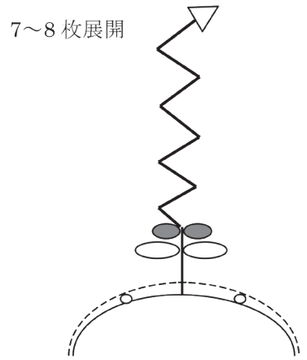
○土壌水分・空中湿度も共に十分確保する。（定植前にベッド中心部まで充分潅水をして定植する。小トンネルを使用すると更に良い。）

○前夜半のハウス内気温を実温で18℃確保、後夜半も15～16℃維持して活着を早める。

○定植後、株元潅水を最低２～３回行うが、地温を下げないように潅水量に注意し、冷たい水を直接根に与え過ぎないようにする。（水温18℃以上のぬるま湯でこまめな手潅水が良い）

○１条植え、２本仕立て（主枝と子枝１本放任）・３本仕立て（主枝と子枝2本放任）の何れの場合も栽植密度を低くする。

② 活　着



②7～8枚展開（活着後）から12、13枚展開まで

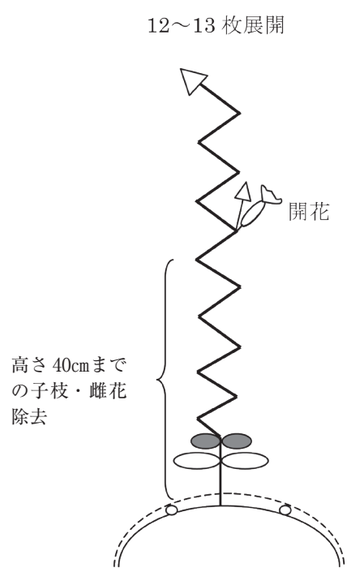
○活着（本葉７～８枚展開）後は、潅水はやや控え気味にする。（水分過多に注意する）

○実温で前夜半15～16℃、後夜半13℃に気温を保つ（気温を下げ過ぎて節間が極端に詰まり過ぎないようにする）

○子枝はベッド上から高さ40㎝程度まで整理（除去）する。

○カーテンは25℃程度で開け始め、日射量を十分確保する。（カーテンを開けるとハウス内の温度が急激に下がるようであれば閉め戻す）

③ 雌花開花



③一番果開花から収穫始めまで

○生育が順調な場合は、主枝の８～９節から着果させる。活着不良の場合は、更に雌花を開花前後～肥大が始まる前に2~5節程度摘み取り一番果の着果節位を高くする。生長点下展開葉5枚での雌花開花になるよう管理する。

○１株中に雌花の開花数が３～４花と増えてきたならば、天候やその他の状況も考慮しながら少量の潅水を行い肥大を促す。

○低位の子枝（有効側枝）２～３本は１節摘芯とする。

○１番果の開花後、果実肥大が鈍いようなら最低温度を１℃位上げる。

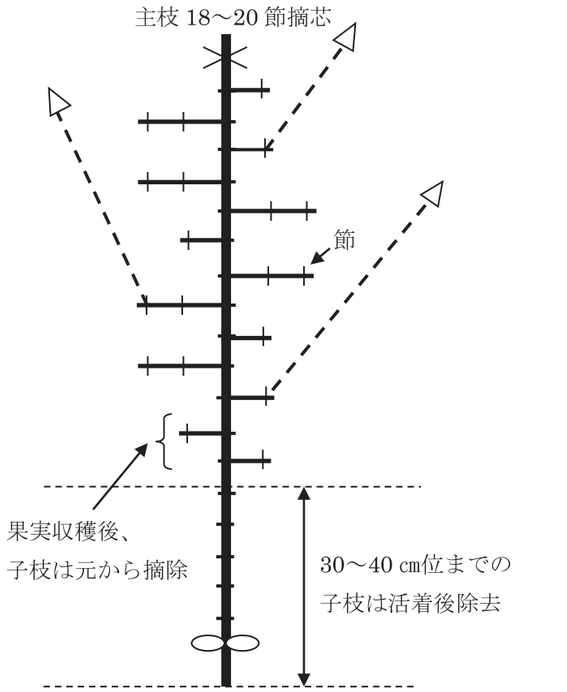
④収穫開始以降の注意点

○順調な生育下においては、10節以降中段付近の子枝は２節止めとし、上段は１節止めとするが、草勢によって（子枝の発生が弱い場合）は芯を残し、半放任とする。

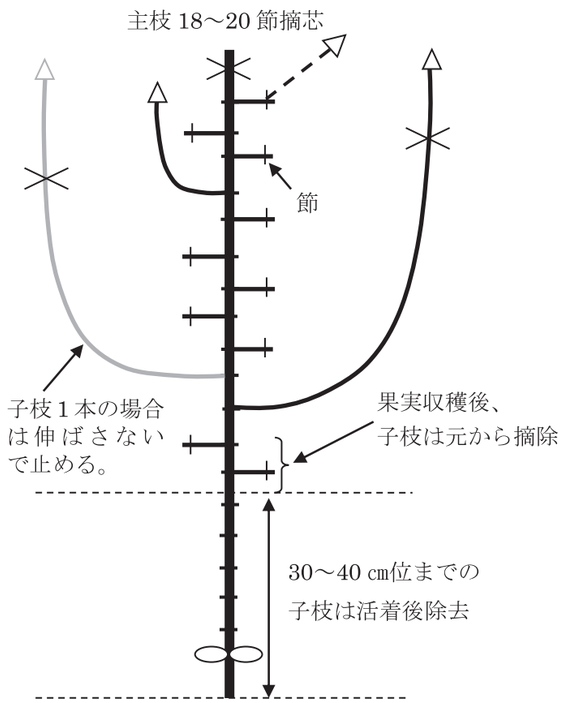
○収穫開始頃から潅水を増やし、草勢によっては追肥も始める。

○天窓・カーテンを閉める頃にハウス内を循環扇や暖房機送風等で攪拌することで温度むらをなくし、地温を確保し、上位枝の徒長を防ぐ。

ハウス栽培における仕立て方の例



①子枝は１～２節で摘芯し、孫枝以降半放任とする



②子枝を１～２本残して誘引する

仕立て方共通のポイント

○必ず1株で3～4本の生長点（放任枝）を確保する。
○伸ばしている側枝の雌花は、芯から3節～4節で開花するのが望ましい。
※仕立て方は、作型・栽植本数により異なりますので上記の限りではありません。

低温伸長性があり、果形の安定性に優れる

ときわ交配 プロスパー2

11月～４月まき

ハウス栽培 加温 無加温

特　　性

- カッパン病に比較的強いため、薬剤散布が軽減でき、後半まで安定した栽培が行える。
- 当社育苗による主枝雌花率は、12月まきで60～80%、3月まきで40～60%、1果成り主体となる。
- 果長は、21～22㎝とややボリューム感のある果実で、収穫始めから最後まで形の整った果形で果色は濃緑となる。
- 主枝伸長はスムーズで節間が詰まりにくい。側枝は、ゆっくりと安定して発生し、葉は濃緑色でやや大きめとなる。
- 果実肥大は順調で果形が良く、安定した収量で草勢の維持も容易となる。

北から南まで幅広い作型に適応する、驚愕の秀品・多収量性品種！

ときわ交配 グランツ

12月～4月、
7月～10月まき

ハウス栽培 加温 無加温

特　　性

- 当社育苗による主枝雌花率は９月まきで 30~40%、１月まきで 80~90%、いずれの播種期でも子枝の連続性は高く、１～２果成り。
- 果長 21㎝位となり、きれいな円筒形、尻細・尻太果の発生は少ない。収穫期全般にわたって、濃緑色で光沢のある果実が成り続ける。
- 肉厚な濃緑色の小葉で、葉柄が立ち、枝の節間は間伸びしづらい。ガッチリとした草姿で、草勢がバテにくい。
- 果実肥大良く、好着果性のため、収量の波が少なく、結果的に多収穫が期待できる。また、高温条件下でも品質の低下はなく、果形の安定力にも優れる。

ハウスキュウリ品種

アグニ
ときわ交配
耐病性 褐斑病
耐病性 ウドンコ病
ハウス栽培 加温 無加温
1月～4月まき

モア
ときわ交配
耐病性 ウドンコ病
ハウス栽培 加温 無加温
1月～4月、6月下旬～8月中旬まき

ボルタ
ときわ交配
耐病性 ウドンコ病
ハウス栽培 加温
9月～12月まき

プロジェクトX
ときわ交配
ハウス栽培 加温 無加温
9月～8月まき

モンドール
ときわ交配
ハウス栽培 加温 無加温
8月下旬～3月まき

エテルノ
ときわ交配
ハウス栽培 加温
9月～3月まき

ときわ888
ときわ交配
ハウス栽培 加温 無加温
9月上旬～3月下旬まき

アンコール10
ときわ交配
ハウス栽培 加温 無加温
12月下旬～5月下旬、7月上旬～9月中旬まき

インパクト
ときわ交配
ハウス栽培 加温 無加温
1月上旬～6月下旬、7月下旬～8月下旬まき

インスパイヤー
ときわ交配
ハウス栽培 加温 つる下げ用
9月～10月まき

アイリス
ときわ交配
耐病性 ウイルス病 (ZYMV)
ハウス栽培 無加温
3月～7月まき

オペラ
ときわ交配
ハウス栽培 無加温
3月～4月中旬、6月中旬～7月中旬まき

ときわGT-Ⅱ
ときわ交配
耐病性 ウドンコ病
ブルームレス台木
周年まき

抜群の発根力で、草勢維持と収量性アップ！

生育初期の発根力に優れ活着がスムーズとなり、地上部の生育や収穫始めは早い。深くまで根が張り、かつ働きも良く、天候不順等の環境変化に対応でき、安定した草勢を維持できる。

ときわパワーZ2
ときわ交配
耐病性 ウドンコ病
ブルームレス台木
周年まき

全国に普及、人気No.１の強力ブルームレス台木！

発芽揃い良く、接ぎ木し易く、いずれの品種とも親和性最高、成苗率抜群。
強い草勢ながら果実肥大に優れ、初期から多収、後半まで安定した高い生産量となる。

ひかりパワーG（ゴールド）
ときわ交配
ブルームレス台木
周年まき

抜群の発根力で、草勢維持と収量性アップ！

生育初期の発根力に優れ活着がスムーズとなり、地上部の生育や収穫始めは早い。深くまで根が張り、かつ働きも良く、天候不順等の環境変化に対応でき、安定した草勢を維持できる。

ときわパワーZ
ときわ交配
耐病性 ウドンコ病
ブルームレス台木
周年まき

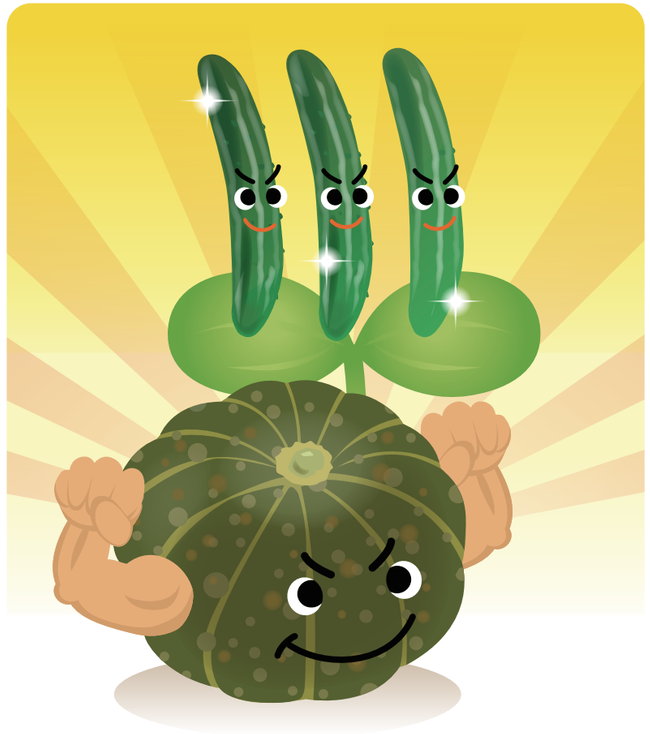
ビッグパワー
ときわ交配
強力
ブルームレス台木
周年まき

ブルームレス台木カボチャの特性表

特性 ＼ 品種名	ぞっこん	ときわ GT-Ⅱ	ときわ パワーZ2	ときわ パワーZ	ビッグパワー
タネの大きさ	中	中	中	中	大
双葉の大きさ	中大	中大	大	中	特大
接木時の胚軸	やや太い	やや太い	やや太い	中位	太い
育苗時の生育	ややゆっくり	早い	早い	ややゆっくり	中位
定植後の生育	早い	早い	早い	中位	中位
収穫始め	やや早い	やや早い	早い	早い	並
前半の収穫量	やや多い	やや多い	多い	多い	並
後半の収穫量	多い	やや多い	やや多い	中位	やや多い
ウドンコ病	強	強	強	強	並

ときわの
ブルームレス
台木シリーズ
ときわ交配

ときわ交配 ぞっこん



耐病性 ウドンコ病　ブルームレス台木

●周年まき

特　　性

- 種子の大きさは中位、子葉は濃緑で発芽揃いは良い。根は太くて根量も多く、広い範囲に深く張るため苗はしっかりとした姿となる。
- 胚軸が太いため、接ぎ木し易い。
- 「呼び接ぎ」「断根挿し接ぎ」どちらでも優れた発根力を発揮して、栽培後半まで安定的に草勢を維持、最後まで収量性・秀品率が高くなる。
- 地上部の生育は、徒長しにくくガッチリとした草姿となる。
- 栽培後半は、草勢が維持しやすく、特に長期栽培において安定した収量を確保できる。
- ウドンコ病耐病性を持つ為、栽培初期のウドンコ病の発生を抑えることができる。

栽培のポイント

- 発芽時に胚軸を伸ばすような管理をして下さい。

すべては夏の中に、すべては緑の中に、すべては太陽の中にある「夏もよう」！

ときわ交配 夏もよう

耐病性 褐斑病　耐病性 ウドンコ病　耐病性 ウイルス病（ZYMV）

露地栽培

４月～８月上旬まき

特　　性

- 当社育苗による主枝雌花率は、4月～5月まきで50～60%、6月～7月まきで30～40%となる。何れの播種期でも側枝は連続着果率が高く各節１果成りが中心である。
- カッパン病、ウドンコ病、ウィルス病（ZYMV）に強く、栽培後半まで草勢維持しやすく作り易い。
- 草勢が安定し、果実肥大が良いので最後まで高い収量を望むことができる。
- 果実は主枝で20～21㎝、側枝は21～22㎝程度、肩こけ少なく鮮緑色である。
- 葉色は緑色で中葉、草勢は中位で、子枝・孫枝ともによく発生する。節間は間伸びしにくい。

栽培のポイント

- 整枝方法は、基本的に子枝を1～2節止めとし孫枝以降から半放任とする。主枝雌花開花が始まる頃より積極的に潅水を行う。また収穫始め頃より追肥を始め、その後も遅れないように行う。
- 果実肥大が早く、初期より収量性が高いため元肥はやや多めに施す。
- 台木は、「ぞっこん」「ときわGT-Ⅱ」が適する。

複合耐病性と高品質多収性を兼ね備えた品種

ときわ交配

艶香（えんか）

耐病性 褐斑病
耐病性 ウドンコ病
耐病性 ウイルス病（ZYMV）

露地栽培

暖地４月～７月まき
寒冷地５月～７月まき

特　　性

- カッパン病、ウドンコ病、ウィルス病（ZYMV）に強く、後半まで栽培し易い。
- 当社育苗による主枝雌花率は、暖地の４月まきで50%前後、寒冷地の５月まきでは50%前後、各節１～２果成りが主体となる。また、側枝の連続着果率も高い。
- 果実は、21～22㎝で、果色は極濃緑、肩こけ少なく秀品率が高い。
- 草勢は中、子枝、孫枝とも安定して発生する。葉は極濃緑で中葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。
- 果実肥大は早く、初期から多収となる。いかなる環境下においても順調に果実肥大し、尻細果や尻太果の発生は少ない。

栽培のポイント

- 初期から多収となるため、灌水は多めにおこない追肥は遅れないようにする。
- 台木は、「ぞっこん」「ときわGT-Ⅱ」が適する。

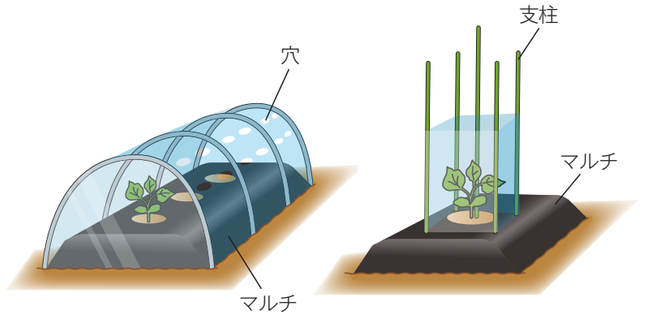
家庭菜園キュウリ栽培のポイント

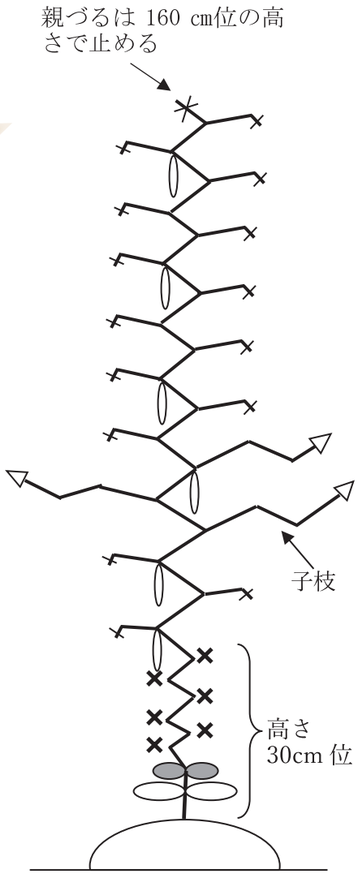
○土作り…良質堆肥を施こし、通気性と排水性の良い状態で、根を深く広く張らせる。

○元肥…作型・地域により多少異なるが目安として成分量で10㎡当たり窒素200～300ｇ、リン酸200～300ｇ、カリ200～250ｇ施す。

○マルチ
マルチは、地温確保、土壌水分確保、防草等の目的に合わせて選んで行う。またマルチをする際は雨天後で土が湿った状態で行うと良い。

○寒い時期は、穴開トンネル被覆資材を使うか、風よけ等を利用し（防風・防寒・保湿）早く根付かせる。





○植え付け

- 苗は、接ぎ木苗と自根苗（接ぎ木せず自身の根を使う）があり、どちらでもできますが、接木苗は台木用カボチャを使うことで土壌病害に強く、草勢が維持しやすくなります。
- 株間は、60㎝～70㎝位とする。
- 植え付け苗は、９㎝ポットの大きさならば、本葉３～４葉頃で、根が鉢の中で十分に張っているものが良い
- 植え付けは、鉢中心部に水が十分に浸みている状態で、植え穴にも十分に潅水をしてから行う。
- 植え付けするときは、極力深植えにならないようにする。
- 植え付け後は、速やかに株元潅水を行い、根付かせるまでは、鉢周りを乾燥させないようにこまめに潅水を行う。高温時期は、地温が上がり過ぎたり乾き過ぎないよう株元付近にワラ等を敷く。

※雌花の付け方と下枝の整理について（右図）
定植後は地際から高さ30㎝までの親づるには、子づるや雌花（肥大が始まる前に取り除く）を付けない。30㎝以上の高さから雌花を付けて収穫する。子枝は１～２節止めとし、中段の子枝は芯を止めずに放任する枝を２～３本程度伸ばす。

※苗はお近くの種苗店でお買い求めください。

家庭菜園に最適！ときわキュウリ

ときわ交配 大望キュウリ

ウドンコ病・ウィルス病〈ZYMV〉耐病性

病気に強い多収キュウリ！

露地栽培
４月下旬～８月中旬まき
10粒～50粒(10粒単位)・100粒

ときわ交配 あけぼの

簡易ハウスに最適！

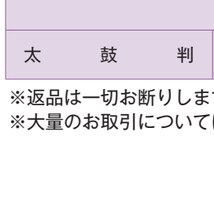
ハウス栽培 加温・無加温
3月～8月まき
10粒～50粒(10粒単位)・100粒

ときわ交配 月　光

品質・食味最高！

露地栽培
4月～6月まき
10粒～50粒(10粒単位)・100粒

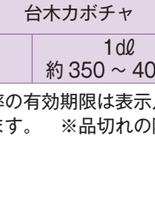
ときわ交配 うぐいす四葉 新発売



うぐいす色の四葉キュウリ

露地栽培　4月～7月まき
10粒～50粒(5粒単位)・100粒

ときわ交配 プチット

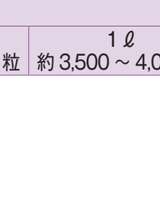


浅漬けに最適！

耐病性ウドンコ病

ハウス・露地
1月～8月中旬まき
10粒～50粒(5粒単位)・
100粒

ときわ交配 うぐいすキュウリ



珍しい鶯色の果実

ハウス・露地
3月～8月まき
10粒～50粒(5粒単位)・
100粒

ロングセラー！　小袋用品種

★耐病性品種

	品種名	粒数	作型	特性
★	ときわの光	20粒	露地全作型	ウドンコ病に強く作りやすい
	新北星キュウリ	10粒～	〃	甘みと歯切れの良さ抜群
	南極1号キュウリ	〃	〃	全国露地完全制覇の実績を持つ露地キュウリの代表品種
★	大吉	20粒	〃	ウドンコ病に強く作りやすい
★	新ときわ地這いキュウリ	40粒･100粒	〃	地這いからネット栽培まで作り易い

大袋販売用種子

キュウリ				
ときわの光（耐病タイプ）	ウドンコ病に強い露地栽培用品種	1dℓ（約2,000粒）	5dℓ（約10,000粒）	1ℓ（約20,000粒）
南極	高品質多収露地栽培用品種	〃	〃	〃
新北星	おいしいキュウリ露地栽培用品種	〃	〃	〃
新ときわ地這いキュウリ	地這い・露地栽培用品種	〃	〃	〃

台木カボチャ				
太鼓判	ブルームレス台木	1dℓ 約350～400粒	5dℓ 約1,750～2,000粒	1ℓ 約3,500～4,000粒

※返品は一切お断りします。　※この種子の発芽率の有効期限は表示月より１年です。
※大量のお取引については、価格の御相談に応じます。　※品切れの際はご容赦下さい。

強い耐病性を持ち、スッキリした草姿で通風採光性に優れ、高品質・安定多収

ときわ交配 光のしずく

耐病性 ウドンコ病

耐病性 ウイルス病（ZYMV）

露地栽培

３月上旬～８月中旬まき

特　性

- ウドンコ病、ウィルス病（ZYMV）の耐病性を持ち、ベト病など各種病害にも比較的強い。
- 当社育苗による主枝雌花率は3～4月まきで50～60%、５～６月まきで30～40%、7月～8月まきで20～30%、主枝・側枝とも１果成りが中心となる。
- 果長21㎝位となり、円筒形の鮮緑色で光沢のある果実で果揃いよく、選果作業が容易となる。
- 葉柄が立ち、節間は間伸びすることなく、スッキリした草姿で採光性が良い。葉は濃緑で厚みのある小葉で持ちが良い。
- 果実肥大力に優れ、初期より多収となり、また果形の安定力にも優れる。果形の乱れ少なく収量性・草勢が安定しており、長期にわたり秀品果が成り続ける。

栽培のポイント

- 孫枝以降の放任枝（生長点）は、多めに確保するが過繁茂になり過ぎないように注意する。
- 中段付近が過繁茂になるようであれば、適宜摘葉を行う。
- 中後半以降は、地際から50～60㎝の高さまで枝の切り戻し等を含め的確に整理を行い株元の通風採光性を確保する。
- 台木は「ぞっこん」「ときわGT-Ⅱ」が適する。

強い耐病性・耐暑性品種で収量性抜群

ときわ交配 大望Ⅰ

耐病性 ウドンコ病
耐病性 ウイルス病(ZYMV)

露地栽培

4月下旬～8月中旬まき

特　　性

- ウドンコ病・ウィルス病（ZYMV）に強くベト病の発生も少ない。萎れにくく、草勢の維持がしやすく、果形の乱れも少ない。
- 当社育苗による主枝雌花率は５～６月まきで40～50%、7月～8月まきで20～30%、主枝・子枝とも１果成りが中心で、着果性は比較的高めとなる。
- 果長21㎝位、果色・光沢よく、果揃い抜群で果形の乱れが少ない。よって選果作業が容易となる。
- 葉は肉厚で濃緑色、葉柄はたれにくい。茎太く、側枝の節間は中位で、しっかりとした草姿となり採光性に優れる。
- 夏の高温･乾燥下でも、しおれにくく、草勢が安定している。最後までしっかりとした草姿を維持できるため、安定した収量が確保できる。

栽培のポイント

- 初期生育が順調であれば、主枝一番果の着果節位は地際40㎝からとし、主枝下段の着果数は多過ぎない様にする。（10節以下で1～2本の着果）
- 孫枝以降の放任枝（生長点）は、多めに確保するが過繁茂になり過ぎないように注意する。
- 中後半以降は、地際から50～60㎝の高さまで枝の切り戻し等を含め的確に整理を行い株元の通風採光性を確保する。
- 台木は「ぞっこん」「ときわGT-Ⅱ」が適する。

ときわ交配 ベランダきゅうり

品種登録番号 第20682号

甘味の強い
おいしいミニキュウリが
ベランダやバルコニーで
簡単に育てられます

鉢で育てるキュウリ

鉢栽培専用
イボなしミニキュウリ
4月～7月まき

10粒～50粒・100粒
(5粒単位)

ときわ交配 漬丸くん

浅漬けに最適！

キュウリ独特のシャキッとした歯触りと、
軟らかな肉質をあわせ持っています。
漬物用に最適ですが、生食でもおいしい
キュウリ！

露地栽培

20粒

仕立て・地這い栽培　どちらでも栽培できます。

雌花着生

当社育苗による主枝雌花率は、20～30%、1～2果成り。
子枝1節目には着果し、以降は飛び節成り性となる。
葉は丸葉で大きく、枝は太く適度に発生する。

果　　実

果長12㎝、太さ3.5㎝で重さ100ｇ程度。肩の形良く円筒形で、イボが低い。果色は淡～黄緑色でかすり多く発生する。また大きめに収穫することで、奈良漬けや鉄砲漬け等にも適する。

小袋品種

「ときわ」がお奨めする新しい家庭菜園用キュウリ

ときわ交配

ときわ光明

耐病性 ウドンコ病　耐病性 ウイルス病(ZYMV)

露地栽培

4月～8月まき
10粒～50粒（10粒単位）・100粒

作ってみて！食べてみて！
病気に強い健康キュウリ！
すばらしい果実が
面白いほど穫れる！

ときわ交配

耐病あけぼの

耐病性 ウドンコ病　耐病性 褐斑病

ハウス栽培 加温 無加温

3月～8月まき
10粒～50粒（10粒単位）・100粒

簡易ハウスに最適！
ウドンコ病・褐斑病耐病性で
病気に強い

強い耐病性を持ち、草勢維持し易く、最後まで安定多収となる

ときわ交配

光耀（こうよう）

耐病性 ウドンコ病　耐病性 ウイルス病(ZYMV)

露地栽培

4月上旬～8月中旬まき

特　性

- 当社育苗による主枝雌花率は、３～４月まきで40～50%、５～６月まきで30～40%、７～８月まきで20～30%。主枝・子枝ともに１果成りが主体である。子枝は連続または飛び節となる。
- 果長21㎝位で、果色・光沢良い。高温下でも果実が短くなりにくい。
- ウドンコ病、ウィルス病(ZYMV)に強い。葉は肉厚で葉柄は立つ。茎太く、側枝の節間は中位で、しっかりとした草姿となる。子枝の発生が良く、孫枝以降の発生もスムーズである。
- 適度な着果であるため、果形が安定しやすい。しっかりとした草勢を維持しやすいため、安定した収量が確保できる。

栽培のポイント

- 仕立て方は、子枝は成り花止めとし、孫枝以降で半放任とする。
- 主枝摘芯は高くなり過ぎないようにやや低めに行う。
- 台木は、「ぞっこん」「ときわGT-Ⅱ」が適する。

A 品本数多い、ほとんど箱詰め出荷！

ときわ交配 光の季（ときき）

耎病性 ウドンコ病　耎病性 ウイルス病(ZYMV)

露地栽培

4月上旬～8月中旬まき

特　　性

- 当社育苗による主枝雌花率は、3月～4月まきで主枝40～50%、5月～6月まきで30～40%、7月～8月まきで20～30%。主枝・子枝共に1果成りが中心である。子枝は盛夏期で飛成りとなる。
- 果長21㎝位となり、果色・光沢よい。果揃い良くボリュームのある果実となる。
- ウドンコ病、ウィルス病（ZYMV）に強い。葉は肉厚で葉柄が立つ。茎太く、側枝の節間は中位で、しっかりとした草姿となる。子枝の発生が良く、孫枝以降の発生もスムーズである。
- 果実肥大スムーズで、果形が安定しやすく、収穫果は下物が少なく、ほとんどが箱詰めになり、出荷作業効率が良い。

栽培のポイント

- 台木は、「ぞっこん」「ときわGT-Ⅱ」が適する。

夏秋キュウリ品種

ときわ交配 パイロット
露地栽培
2月下旬～8月中旬まき

ときわ交配 ときわ333
耎病性 ウドンコ病
露地栽培
3月上旬～8月中旬まき

ときわ交配 金星
耎病性 ウドンコ病
露地栽培
3月中旬～8月上旬まき

ときわ交配 光琳
露地栽培
3月上旬～6月下まき

ときわ交配 光望
耎病性 ウドンコ病　耎病性 ウイルス病(ZYMV)
露地栽培
4月上旬～8月中旬まき

ときわ交配 パイロット103
露地栽培
2月下旬～8月中旬まき

ときわ交配 南極1号
露地栽培
2月下旬～8月下旬まき

ときわ交配 新北星
露地栽培
3月上旬～8月上旬まき